

港区芝浦3-2-22 田町交通ビル3階
TEL:03-3769-6571 FAX:03-3769-6570

発行日 2026年1月22日
発行人 蒔田 純司

交運労協URL <http://www.itf-jc.jp>

政策実現・春闘勝利・総選挙勝利に向け

新たな一年の飛躍と躍進を誓う

【交運労協・2026年新年交歓会を盛大に開催】

1月19日、交運労協は、「都市センターホテル」にて「2026年新年交歓会」を開催し、政策実現・春闘勝利・総選挙勝利に向け、さらなる飛躍と躍進を誓い合った。

冒頭、交運労協を代表して、池之谷議長から年頭の挨拶を行った。

池之谷議長年頭あいさつ

明けましておめでとうございます。年頭に当たってのご挨拶を申し上げます。

皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、大変ご多忙の中、連合から神保政史事務局長、行政からは、国土交通省・寺田吉道国土交通審議官、厚生労働省・河野恭子政策立案総括審議官、政党からは、立憲民主党・野田佳彦代表、国民民主党・古川元久代表代行、そして、交運労協政策推進議員懇談会・会長の近藤昭一衆議院議員にもご臨席を賜りました。さらに、関係省庁の皆様、衆・参国會議員の皆様、事業者団体の皆様、労組関係・友誼団体の皆様にも、本日の新年交歓会にご臨席をいただきました、心から御礼申し上げます。

今年は、東日本大震災から15年、熊本地震から10年と節目の年となります。1月6日には、島根県・鳥取県を中心とした山陰地方で最大震度5強の地震が発生し、昨年末には、青森県をはじめとした東北地方で、震度6強の地震が発生しました。被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、災害への備えと、被災地が早期復旧するスキームの構築を急がなければなりません。海外に目を向けると、アメリカのベネズエラに対する軍事侵攻により、多くの尊い命が犠牲になりました。大国の傲慢な行動は、内政干渉であり、国際法に違反することは言うまでもありません。交運労協は、ITFとともに、対話や外交、国際協力を通じての解決を求めていかなければなりません。さらに、ロシアによるウクライナ侵攻は、4年目に入りましたが、いまだ収束の目処が立っていません。



こうした状況により、航空と海上輸送に関わる交通運輸・観光サービス産業では、紛争地域の迂回を余儀なくされ、航行時間の延長に伴うコスト増が深刻な問題となっています。私たちは、地域の安定と産業の安全に向けて、一日も早い紛争の解決を求めていかなければなりません。

さて、私たちの交通運輸・観光サービス産業では、解決しなければならない課題は山積しています。

特に、担い手不足は全職場・全職種で深刻となっています。解決には、

賃金をはじめとする労働条件の改善が欠かせません。そのような中、いよいよ2026春季生活闘争がスタートします。2024・2025春闘は、デフレ脱却の兆しが見えた春闘となりましたが、実質賃金が物価上昇に追いつかない状況にあります。2026春闘では、社会経済を支える私たちにふさわしい賃金体系の構築に向け、さらなる人への投資を前面に、継続した賃上げを勝ち取らなければなりません。

重要なのは、私たちの働き方です。国は、交通政策基本計画や観光立国推進基本計画、総合物流施策大綱など、新たな5年計画を新年度よりスタートします。国としてのビジョンを深く理解するとともに、これらの新たな計画を活用し、私たちの産業をいかに優位にするかが肝要であり、この取り組みを通じて、賃金・労働環境の改善を図りながら、担い手の確保に努め、持続可能な公共交通の実現につなげなければなりません。

就任早々、高市首相は労働時間規制の緩和を唱え、働き方改革と逆行する態度を示しています。交通運輸・観光サービス産業は、全産業と比較しても長時間労働の傾向にあり、労働者軽視ともいえる発言は、看過できるものではありません。さらに、維新との連立政権により、ライドシェア全面解禁の動きも懸念されます。これらの課題解決や、共通する、政策・制度要求の実現を図るためにには、政治力の強化が必要です。

昨年の第27回参議院議員選挙では、交運労協政策推進議員懇談会の事務局長であった森屋隆氏の議席を守れなかったことは、痛恨の極みであり、交運労協議長として真摯にお詫びを申し上げます。高市首相は、23日の通常国会の早期に衆院を解散する意向を表明しましたが、昨年に続く政治空白は、予算の成立がずれ込み、経済の停滞を招きます。国民の暮らしに直結する政策実行の優先と繰り返したことからは整合性が取れず、だまし討ちともいえる、大儀なき解散は、国民軽視と言わざるを得ません。

交運労協は、今次選挙において、交運労協政策推進議員懇談会の近藤会長をはじめ、すべての会員の勝利に向けて、交運労協一丸となって取り組んでまいります。

結びに、本年も各構成組織・地方交運労協とともに、政策集団として、誰もが働きやすい、労働環境を構築し、持続可能な交通運輸・観光サービス産業の実現に取りくんでいくことをお誓いするとともに、本日ご臨席いただきました皆様のご健勝・ご活躍を心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



続いて、各界よりお越しいただいた、ご来賓より挨拶を賜った。

労働界を代表して、連合の神保政史事務局長からは「2026 年の幕開けは、高市首相の解散総選挙宣言に象徴されるように激動と言っても過言でない。交運労協の組合員が担う交通運輸・観光サービス産業は年末年始、大変多忙な中、真摯にその任を全うされる組合員に敬意を表するところである。連合は、2026 春闘の準備もいよいよ大詰めとなってきた。2 月中旬からは、取り組みが本格化する。今春闘も一昨年、昨年に続き5%を超える賃上げを目指して、全構成組織が力を合わせて取り組みを強化してまいりたい。昨今の状況を鑑みると賃上げが物価高に追いつかず、実質賃金のマイナスが続いている。今次春闘では、すべての労働者の賃金を引き上げられるよう、連合として取り組んでいく。これから選挙戦がスタートし、その後には春闘が本格化してくる。交運労協各構成組織にもより一層の連帯・連携を要請する」と挨拶を賜った。

その後、各政党代表からも挨拶を賜った。

立憲民主党の野田佳彦代表からは「昨年の参院選では、森屋たかし氏の再選を果たすことができなかった。立憲民主党の力量不足反省し、お詫び申し上げる。今回新たに立ち上げた中道改革連合(通称:中道)は、政治理念の中道を進むべく基本政策を策定した。これから立憲民主党の仲間に須らく新党への合流を要請しているところである。今回の合流・新党結成は、決して野合ではない。公明党・立憲民主党という与党・野党それぞれの立場で中道改革を志していたことから、方向性は一致していると認識している。予算審議に関わる通常国会冒頭での解散宣言は国民不在であり、大変に理不尽としか言いようがない。中道改革連合は、生活者ファーストで包摂的な考え方で物事を進めていく」と挨拶を賜った。

続いて、国民民主党の古川元久代表代行からは「ガソリン価格の暫定税率が廃止され、実際に小売価格が低下してきた。大義をもって言い続けることの大切さを実感した。交通運輸・観光サービス産業に重要な役割を果たしている運輸事業振興助成交付金制度については、制度を継続していくように引き続き取り組みを進めてまいりたい。このように昨今の政治政策は与野党の勢力が拮抗し、より緊張感をもって各審議が続いていることによって、国民生活にも寄与している。年末に予算協議が



進展したにも関わらず解散総選挙に打って出るのは自己都合としか言いようがない。国民民主党は働く人たちの立場に立った政治を目指していく」と挨拶を賜った。

その後、代表して国土交通省の寺田吉道国土交通審議官からは「交運労協は、40年近い歴史を刻み、日本の交通運輸・観光サービス産業の政策を取りまとめてこられた、実績ある団体であり、敬意を表する。その各種政策の成果もあり、わが国の交通運輸・観光サービス産業にて働く方々は、皆献身的に業務に励み、その安全レベルやサービスレベルの高さから世界に誇れる産業である。これからも最前线で働く人々が安心して働く交通運輸・観光サービス産業を目指し、交運労協のますますのご活躍を祈念申し上げる」と挨拶を賜った。

続いて、厚生労働省の河野恭子政策立案総括審議官からは「交通運輸・観光サービス産業が国民生活の基盤となり、年末年始においても高い需要がある中で、陸・海・空の輸送サービスをお支えいただき、感謝申し上げる。時下、春闘の準備がたけなわであることと存するが、2025春闘においては、2年連続で5%賃上げを実現することができた。2026春闘においても労使が真摯な検討と交渉を行い、労使間の合意形成が実現されることを期待申し上げる。交運労協が掲げる取引適正化・価格転嫁についても、関係省庁と連携して、取適法をはじめとする各種政策の実現に取り組んでまいりたい」と挨拶を賜った。

最後に交運労協政策推進議員懇談会からは、代表して会長の近藤昭一衆議院議員より「大変な年の幕開けとなった。国際社会が震撼した、米国のベネズエラ侵攻について、国際的な統治事情が崩壊しようとしている。解散総選挙について、予算審議が遅れる影響は計り知れない。新たに結成した中道改革連合は、国民生活を第一に、包摂的な社会を創りあげるため、新たな結集軸を作り、政権に対峙していく。交運労協政策推進議員懇談会は、交運労協としっかりと連携を図り、政策推進に力を注いできた。今回新たに、辻元清美参議院議員を事務局長に迎え、交運労協とより連携を深めて政策実現を果たしてまいりたい」と挨拶を頂いた。



続いて、成田幸隆副議長(運輸労連)の発声により、新年の祝杯を挙げた。

政局は、混迷を極め、政治空白が続く中、1月23日には、衆議院が召集日冒頭に解散され、総選挙となることが決定した。そのような中、1月27日に公示され、2月8日に投開票される第51回衆議院議員総選挙に出馬される交運労協・政策推進議員懇談会に集う多くの衆議院議員と、参議院議員に駆けつけて頂き、共に新年を祝し、総選挙での全員当選を誓い合った。

会場には、各構成組織からのご列席者をはじめ、友誼団体、交運労協OBも多数ご列席され、にぎやかさと莊厳さを兼ね備えた盛大な交歓会と相成った。

交歓会の結びには、小林茜副議長(航空連合)よりご列席の皆さまに挨拶し、交運労協2026年の幕開けを大成功裡に納めた。



自然災害や、不意な解散総選挙により、激動を予感させる丙午・新年のスタートとなつたが、交運労協は、各構成組織とより一層「連携」を密にして「協働」し、私たちに必要な政策の実現を「共創」していく！

以上